

令和4年度 学校経営計画及び学校評価（案）

1 めざす学校像

【教育目標】 平成24年12月の痛ましい事案を風化させることなく受け止め、新たな学校づくりを推進する。 豊かな教養と幅広い人間性（他者を慈しむ心）の基盤の上に、学習とスポーツ・文化活動の両立（文武両道）をめざして、何事にも前向きに取り組む人材を育成する。 【育成をめざす資質・能力】 1. 学校行事や部活動を通して、学年の枠を超えて自主・自律の態度を育成するとともに、協働、集中、規律、責任などを重んじる態度とコミュニケーション能力を培う。 2. 基礎学力を定着させるとともに、生徒の学ぶ意欲を高める。さらに、思考力・判断力・表現力を培い、主体的な学習能力の向上を図る。 3. 礼儀正しく、思いやりと品位のある態度を養い、挨拶の励行、マナーの遵守、校舎内の清潔の保持に自ら進んで取り組む態度を育てる。 4. 自他を尊重する心を育み、人権を尊重する態度を養う。

2 中期的目標

【桜宮高等学校改革プラン（骨子）】 ・学校体制の抜本的刷新を行い、体罰・暴力行為等を一扫し、学校の体質改善をすすめる。 ・信頼と誇りを胸に、生徒・保護者、市民とともに先進的なスポーツモデル校をめざし、学校づくりをめざす。 ・豊かな教養と幅広い人間性（他者を慈しむ心）を最重視し、その基盤の上にスポーツマインドを備えた人材を育成する。 1 確かな学力の育成と進路実現 （1）基礎学力の充実を図るとともに応用力と創造性を養い、自ら進んで問題解決・自己実現していく態度を育成する。 ア 家庭での学習習慣の定着を図り、早期から進路実現に向けた自主学習習慣を確立させる。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「21_授業以外で一定時間、毎日勉強している」の肯定的回答率（全学年）を令和6年度には50%以上にする。 （R1 全学年：32.7%、1年：20.4%、2年：24.9%、3年：52.9%）（R2 全学年：32.3%、1年：28.4%、2年：24.3%、3年：44.5%） （R3 全学年：38.1%、1年：30.5%、2年：33.0%、3年：51.1%） イ 進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の受検意識の向上を図る。 ※ 外部検定の令和6年度受検者数を漢字検定110名（2回）以上、英語検定80名（3回）以上にする。漢字検定受検者数（R1：86名（2回）、R2：29名（1回）、R3：103名（2回））、英語検定受検者数（R1：136名（3回）、R2：79名（3回）、R3：61名（3回）） ウ 生徒の健全な教養の育成のために、書籍に親しむ態度の養成に取り組む。 ※ 令和6年度には、入館者数1200名、貸出冊数500冊をめざす。（R1 入館者数1822名、貸出冊数739冊、R2 入館者数785名、貸出冊数200冊、R3 入館者数1114名、貸出冊数474冊） （2）生徒が、自発的に自らの能力・適性・興味・関心を生かした進路選択を行い、進路実現に向けた積極的な取組みを主体的に行える力を育成する。 ア 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、実力養成に努める。 イ 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、進路意識の向上に努める。さらに、生徒の自発的な情報収集能力・活用力の向上を図る。 ※ア、イ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率（全学年）を令和6年度には82%以上にする。 （R1 全学年：81.4%、1年：75.7%、2年：79.5%、3年：88.9%）（R2 全学年：77.7%、1年：67.0%、2年：79.1%、3年：87.2%） （R3 全学年：79.9%、1年：70.0%、2年：82.8%、3年：87.1%） ウ 生徒一人ひとりの進路実現に向けて、各学年に応じた心構えや進路情報を提供する。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「11_進路に関しての先生からのアドバイスは適切である」の肯定的回答率（全学年）を令和6年度には85%以上にする。 （R1 全学年：83.5%、1年：78.9%、2年：78.8%、3年：92.9%）（R2 全学年：80.5%、1年：69.1%、2年：84.4%、3年：88.3%） （R3 全学年：81.4%、1年：74.4%、2年：83.2%、3年：86.7%） エ 保護者への進路情報を適宜提供するとともに、生徒・保護者が奨学金制度を理解し、もれなく申請できるようにする。 ※ 「（保護者用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率（全学年）を令和6年度には70%以上にする。 （R1 全学年：64.8%、1年：52.1%、2年：57.4%、3年：85.1%）（R2 全学年：65.4%、1年：55.7%、2年：60.4%、3年：79.2%） （R3 全学年：69.6%、1年：58.8%、2年：65.1%、3年：84.8%） オ 人間スポーツ科学科の生徒を中心に、将来アスリートを多方面からサポートする人材の育成に向け、ジュニアトレーナー制度の充実を図るとともに、外部団体の公認資格の受験推進を図る。 ※ 資格試験の正解率70%以上を基準とし、令和6年度の合格者70名以上を目標とする。合格者（R1：70名、R2：70名、R3：66名） カ ジュニアトレーナー合格者のさらなるステップアップとして、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。 ※ 正式資格の令和6年度受験者数15名以上を目標とする。受験者数（R1：14名、R2：未実施、R3：9名） （3）グローバル社会に対応できる人材の育成 ア キャンプライアカレッジとの交流を通して、国際社会に生きる市民としての意識の涵養に努める。 ※ 国際交流事業に参加した生徒に対するアンケート調査を実施し、満足度75%以上を目標とする。〔新規項目〕 2 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 （1）人権を尊重する教育の推進 ア 命の大切さを理解させるとともにお互いを認め合う心を育て、人権意識を高める。また、これらの指導を通して生徒理解への環境づくりに努める。 ※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率（全学年）を令和6年度には85%以上にする。〔新規項目〕 （2）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援 ア 生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。 ※ 「自立支援コースについてのアンケート」の項目4「あなた（お子様）にとって本校の自己実現（進路、学習等）に向けての支援は十分できていると思

いますか」の「①充分であると思う」の回答を 70%以上にする。〔新規項目〕

3 豊かでたくましい人間性の育み

（１）他者を思いやる豊かな人間性を備え、自律した生徒を育てるとともに、社会への適応力を育成する。

ア 集団活動において、ルールを守る態度を育てるとともに、自他尊重の意識を高め、倫理性・自律性を深める。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「18_学校生活について、先生方の指導は納得できる」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 84%以上にする。

（R1 全学年：79.4%、1 年：83.9%、2 年：76.3%、3 年：77.9%）（R2 全学年：77.8%、1 年：79.9%、2 年：83.3%、3 年：70.1%）

（R3 全学年：80.0%、1 年：79.9%、2 年：75.8%、3 年：84.5%）

イ 誰に対してもさわやかに挨拶ができる生徒を育て、生徒・保護者や教職員が笑顔で挨拶のできる学校をめざす。

ウ 挨拶をはじめとするコミュニケーション能力の向上を図り、生徒自らが明るく気持ちのいい学校生活を送ることができる学校づくりをめざす。

※イ、ウ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「4 学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 88%以上にする。

（R1 全学年：86.2%、1 年：83.6%、2 年：88.5%、3 年：86.4%）（R2 全学年：84.7%、1 年：77.3%、2 年：86.3%、3 年：90.5%）

（R3 全学年：85.9%、1 年：84.6%、2 年：83.9%、3 年：89.4%）

エ 基本的生活習慣の確立と時間厳守の意識の向上を図り、遅刻数の減少をめざす。

※ 令和 6 年度には、学校全体で年間の遅刻数を 500 件以内に作る。（R1：611 件、R2：610 件、R3：565 件）

オ 社会貢献ならびに学校の活性化につながる活動を行う。

※ エコキャップ運動・アイシティーeco プロジェクトの校内周知に努め、年間 1 万個以上を事業所に届けることを目標とする。〔新規項目〕

カ 生徒が他者との協力関係や良好な人間関係を築き、社会に貢献しようとする態度を養い、総合的な「人間力」の育成を図る。

※ SAKURA フェスティバル来場者のアンケートにおける満足度を令和 6 年度も 95%以上とする。（R1：99.3%、R2：未実施、R3：95.5%）

（２）自主・自律の精神を尊重し、友好な人間関係を構築することができる環境づくりをすすめる。

ア 自主・自律的態度を育成するとともに、仲間との絆の意味を理解し、自他を尊重する心を育む。

※ 「桜高祭の取り組みに対しての生徒アンケート」を実施し、令和 6 年度の満足度 92%以上を目標とする。（R1：89.3%、R2：88.3%、R3：89.3%）

イ 部活動において、生徒が主体的に活動に取り組めるような環境づくりを図るとともに、部活動間の意思疎通を促し、学校全体の活性化を図る。

※ 「生徒向け部活動アンケート（2 学期末：1・2 年生）」を実施し、令和 6 年度には、生徒の満足度 98%以上を目標とする。

（R1：99.1%、R2：98.9%、R3：96.1%）

4 健やかな心身の育み

（１）自らの健康や体力に関心を持ち主体的に健康・安全・美化を管理し改善していく資質や能力を育てる。

ア 心の健康について関心を持たせるとともに、命の大切さを学ばせる。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある。」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 85%以上にする。〔新規項目〕

イ 欠席状況の早期把握と、そのデータの活用を図り、生徒の相談体制を構築し、生徒理解に努める。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「20_学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができている」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 82%以上にする。

（R1 全学年：78.1%、1 年：76.8%、2 年：76.5%、3 年：81.1%）（R2 全学年：74.4%、1 年：66.2%、2 年：80.0%、3 年：77.2%）

（R3 全学年：78.8%、1 年：76.2%、2 年：75.6%、3 年：84.8%）

5 教員の資質向上

（１）指導法の改善と授業力向上を図る。

ア 研究授業、授業見学月間等の実施により、教員間の意見交換を活発に行うことで、授業力の向上をめざす。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「5_授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 80%以上にする。

（R1 全学年：76.6%、1 年：72.9%、2 年：76.6%、3 年：80.4%）（R2 全学年：73.7%、1 年：66.2%、2 年：79.4%、3 年：79.5%）

（R3 全学年：76.8%、1 年：78.8%、2 年：70.3%、3 年：81.4%）

6 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

（１）開かれた学校づくりと広報活動の推進

ア 前年度の入試出願状況を検証し、広報活動の一層の充実を図る。

※ 令和 6 年度も前年度より入学志願者を増やす。

（R1 普通科：158 名、自立支援コース：6 名、専門科：172 名）（R2 普通科：165 名、自立支援コース：6 名、専門科：124 名）

（R3 普通科：147 名、自立支援コース：5 名、専門科：141 名）

イ 地域に開かれた学校づくりを目指す。

※ 「SAKURA フェスティバル」の参加者数を前年度と同等以上の参加者数を目標とする。（R3：607 名、R2：未実施、R1：234 名）

（２）働き方改革

ア 教職員の時間外勤務の縮減に向けた取組みを促進し、勤務時間等の管理、健康管理を徹底することにより、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。

※ 年間平均時間外勤務時間を令和 6 年度には、42 時間以内とする。〔新規項目〕

7 安全で安心な学びの場づくり

（１）生徒の生命・身体を守る取組み

ア 自転車通学のマナー向上と交通事故防止を目標に、交通安全に対する意識を高める。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「22_交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 70%以上にする。〔新規項目〕

（２）保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底

ア 清潔で安全な環境づくりに取組むために、委員会活動を通じて、校内美化に努める。

※ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「24_校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」の肯定的回答率（全学年）を令和 6 年度には 80%以上にする。〔新規項目〕

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 4 年 1 2 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
A 学校の様子について 「1 学校に行くのが楽しい」については、〔全学年：82.6%、1 年：82.2%、2 年：82.5%、3 年：83.2%〕が肯定的回答で、どの学年もほぼ同等の割合であった。一方、「2 本校の部活動は活発で、充実している」は、昨年度より 2.7%（全学年）減少〔全学年：87.2%、1 年：84.2%、2 年：87.5%、3 年：89.8%〕している。本校の特徴でもある部活動をさらに活性化させるために、生徒主体の活動を推進していかなければならない。そのためにも、部活動代表者研修などを行い、生徒がより積極的に部活動に参加できるよう、リーダーの育成にも取り組んでいかなければならない。 B 授業について 「5 授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率が、前年度より 5.3%（全学年）向上〔全学年：82.1%、1 年：84.2%、2 年：83.3%、3 年：78.9%〕しており、教員一人ひとりの努力の成果があらわれている。しかし一方で、「7 先生は生徒の質問に丁寧に応えてくれる」〔全学年：85.8%、1 年：87.6%、2 年：82.1%、3 年：87.5%〕や「8 先生は、教え方に工夫をしている」〔全学年：83.3%、1 年：86.1%、2 年：81.7%、3 年：82.0%〕については、昨年度より低下しており、「授業アンケート」などを分析し、さらなる工夫・改善をしていかなければならない。特に、1 人 1 台端末の活用において、教員間の格差があることも、その要因の一つであると推測できるので、今後も研修を積み重ね、積極的に活用できるようにするとともに、互いの成果を共有し研究に努めていきたい。 C 進路指導関係について どの設問においても、肯定的回答率が概ね前年度より向上しており、今までの取り組みを継続するとともに、生徒一人ひとりの特性に応じた進路実現をめざしていかなければならない。 D 行事・団活動について 多くの設問で、肯定的回答率が昨年度より低下している。また、桜高祭直後の独自のアンケートにおいても、満足度が約 7 % 低下〔R3:89.3%→R4:82.4%〕している。このことを真摯に受け止め、学校全体の行事について、検討しさらなる発展に向けて取り組んでいかなければならない。現在、「将来構想検討委員会」で議論を進めているので、来年度の実現に向けて検討していく。 E 生活指導・保健関係について 「19 いのちの大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定的回答率が〔全学年：92.1%、1 年：93.4%、2 年：91.7%、3 年：91.0%〕とても高い数値であり、「命の講話」や「赤ちゃん先生プロジェクト」の内容が充実していたことがうかがえる。また、「17 先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」〔全学年：87.5%、1 年：88.4%、2 年：85.8%、3 年：88.3%〕や「20 学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができている」〔全学年：85.5%、1 年：86.5%、2 年：84.2%、3 年：85.9%〕も肯定的回答率が高く、教員と生徒とがコミュニケーションを図る環境ができていると考えられる。一方で、「18 学校生活について、先生方の指導は納得できる」〔全学年：76.3%、1 年：79.5%、2 年：75.8%、3 年：73.4%〕は、昨年度と比べて同等か低下しており、学校全体としての相談体制を整えていく必要がある。 F その他 「21 授業以外で一定時間、毎日勉強している」〔全学年：33.8%、1 年：25.9%、2 年：31.3%、3 年：44.1%〕の肯定的回答率は、昨年度より 4.3% 減少しているが、3 年生の経年比較では、11.2% と大幅に向上しており、スタディサプリの活用がその一因としてあげられる。3 年生は、受験対策として使用していたと考えられる。今後は 1・2 年生の使用頻度を上げ、家庭学習の定着に向けて工夫していくとともに、生徒への関心を引き上げるためにも、教員研修を重ね、積極的に活用できるようにする。 「22 交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」〔全学年：78.3%、1 年：77.6%、2 年：79.6%、3 年：77.7%〕 「24 校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」〔全学年：78.9%、1 年：77.2%、2 年：77.1%、3 年：82.4%〕は、ともに、今年度新たに設けた設問であるが、その肯定的回答率が予想よりも高い結果が得られた。来年度以降の目標達成のためにも、日ごろの指導のさらなる積み重ねが重要だと考える。	第 1 回】令和 4 年 6 月 10 日（金） - 開会のことば（会長） - 学校長挨拶 - 参加者自己紹介 - 協議「令和 4 年度 学校経営計画」について 教頭より説明し、意見交換した。 ・協議内容 - 確かな学力の育成と進路実現 - ICT の積極的な活用に期待したい。 生徒一人一台端末の導入に合わせて、スタディサプリアを導入し、教員向け講習会を開催した。 - 進路実現に向けて、適切な進路情報の提供を期待する。 生徒向け、保護者向けの進路行事の内容を充実していく。 - 国際交流事業の再開に向けて尽力してもらいたい。また、オーストラリアの歴史や先住民について学びを深めてほしい。 オンライン開催に向けて検討中。 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 - 目標値の達成に尽力してもらいたい。 - 豊かでたくましい人間性のはぐくみ - 挨拶の指導を継続して行ってほしい。 - 遅刻の原因を分析し、個別対応をしていくことを望む。 - 健やかな心身の育み - 朝食を食べない。朝起きられない子供が増えていると聞く。食育の取組みも必要ではないか。あるいは、経済的な理由で食べられないかもしれない。ヤングケアラーに対する個別面談を実施し、コミュニケーションを図ることが必要だろう。 - 教員の資質向上 - 生徒からのアンケートを実施し、指導方法に反映させ、生徒との研究協議を実施してみるのもいいと思う。 - 学校の組織力向上と開かれた学校づくり - 安全で安心な学びの場づくり - 花壇の整備を継続して行ってほしい。 【第 2 回】令和 4 年 11 月 25 日（金） - 開会のことば（会長） - 学校長挨拶 - 協議「令和 4 年度 学校経営計画（中間評価）」について 各分掌長より説明し、意見交換した。 ・協議内容 - 確かな学力の育成と進路実現 1 人 1 台端末の有効活用を望む。 スタディサプリアを導入し、1 学期はスタディサプリアに慣れることを目標として、のべ 170 回の課題配信を実施した。現在のところ動画視聴の上位クラスは 3 年生が占めており、受験対策として使用していると考えられる。今後は 1・2 年生の使用頻度を上げ、家庭学習の定着に向けて工夫していく。また、使用規制についても検討する必要がある。 - 進路状況の報告 - 例年に比べ、就職者の割合が増加している。 - 国際交流事業の再開について 2023 年度再開予定。 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 - 進路状況について 3 年生 3 名中 2 名が進路決定した。 - 自立支援コース活動について SAKURA フェスティバルにおいて、来場者に支援生たちが育てた「花の種」をプレゼントした。 - 豊かでたくましい人間性のはぐくみ - 挨拶指導の徹底をお願いする。 生徒から積極的に挨拶している。 - 遅刻の原因を分析と個別対応を望む。 遅刻の理由は、体調不良や通院が多く、生活習慣の乱れが原因だと考えられる。 各学年の遅刻数は、増加傾向時ある。 - 健やかな心身の育み - 健康観察を継続し、生徒の体調管理に努めてもらいたい。

	5. 教員の資質向上 ・校内体制について - 校内研究授業 2 回実施した。また、別途初任者による研究授業を 2 回、教育実習生も 12 名受け入れたことにより、教員相互の研鑽の機会が増加した。 6. 学校の組織力向上と開かれた学校づくり ・広報活動について - 中学校訪問（88 校）、校外学校説明会（15 会場）、オープンスクール（2 回）を実施した。特に、第 2 回オープンスクールの参加者は昨年度に比べ、130%90 名増であった。 7. 安全で安心な学びの場づくり ・朝の登校指導の範囲を広げて欲しい。 【第 3 回】令和 5 年 1 月 27 日（金） 1. 開会のことば（会長） 2. 学校長挨拶 3. 協議 ①「令和 4 年度 学校経営計画及び学校評価」について 教頭より説明し、意見交換した。 ・協議内容 1. 確かな学力の育成と進路実現 ・家庭学習の定着を高めてもらいたい。 ・英語検定の受検級も含めて取り組んでももらいたい。 ・国際交流事業の再開の実現を期待する。 ・進路に関する取組みの結果が向上している。 2. 「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進 ・人権学習においてウクライナ紛争の内容に触れたことは評価できる。 3. 豊かでたくましい人間性のはぐくみ ・交通マナーの向上、啓発に継続して取り組んでももらいたい。 4. 健やかな心身の育み ・「いのちの講話」や「赤ちゃん先生プロジェクト」など命の大切さを学ぶ機会を続けていただきたい。 5. 教員の資質向上 ・教員相互の研鑽の機会が増加し、その成果が表れている。 6. 学校の組織力向上と開かれた学校づくり ・SAKURA フェスティバルの内容がさらに良くなっている。 ・教員の働き方改革は、どの業種でも必要である。他校の取組みを参考にしてもらいたい。 7. 安全で安心な学びの場づくり ・校内美化の向上に尽力し、安全な環境を維持してもらいたい。 ②「令和 5 年度 学校経営計画及び学校評価（案）」について 教頭より説明し、意見交換した。 ・今年度の取組みを踏襲しており、更なる目標の達成に取り組んでももらいたい。 4. 次年度の予定 ・了承いただいた。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現	（１）基礎学力の充実を図るとともに応用力と創造性を養い、自ら進んで問題解決・自己実現していく態度を育成する。 ア 家庭での学習習慣の定着を図り、早期から進路実現に向けた自主学習習慣を確立させる。 イ 進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の	（１） ア 各教科において、予復習に活用できる教材の提供や授業時の小テストを実施することで、家庭学習を定着させる。また、ICT を活用した授業研究を推進し、生徒の興味関心を引き上げ、自主的に学習に取り組む意識を向上させる。 イ 科目選択・資格試験に向けた情報の提供や生徒一人一人の状況に応じた指導を行う。そのために、科目選択や資格試験に向けた説明会・	（１） ア 「（生徒用）学校教育自己診断」における「21_授業以外で一定時間、毎日勉強している」の肯定的回答率（全学年）を 40%以上にする。 〔全学年：38.1％、１年：30.5％、2 年：33.0％、3 年：51.1％〕 イ 外部検定の受検者数を前年度より増加させる。 漢字検定受検者数	（１） ア 〔全学年：33.8％、１年：25.9％、２年：31.3％、3 年：44.1％〕（△）スタディサプリを導入し、1 学期はスタディサプリに慣れることを目標として、のべ 380 回の課題配信を実施した。動画視聴の上位クラスは 3 年生が占めており、受験対策として使用していると考えられる。12 月に教員研修を開催し、英検対策として使用するなど、1・2 年生の使用頻度も上がってきた。今後も、家庭学習の定着に向けて工夫していく。 イ 外部検定の受検者数（○） 漢字検定受検者数〔60 名（2 回）〕 英語検定受検者数〔327 名（3 回）〕

府立桜宮高等学校

	受検意識の向上を図る。	補習を実施し、資格取得への意欲を高める。	〔103 名（2 回）〕 英語検定受検者数 〔61 名（3 回）〕	英検受験者数増加の背景として、校内受験が可能になったことや受験料の変化があげられる。また、大学受験に役立つという指導が行き届いてきたことも考えられる。さらに、進路実現に向けた科目選択・資格取得の重要性を説き理解させ、漢字検定や英語検定など外部検定の受検意識の向上を図る。
ウ	生徒の健全な教養の育成のために、書籍に親しむ態度の養成に取り組む。 （2）生徒が、自発的に自らの能力・適性・興味・関心を生かした進路選択を行い、進路実現に向けた積極的な取り組みを主体的に行える力を育成する。	ウ 芸術、文化に対する関心、意欲を育てるために、新刊図書、話題の図書、推奨図書などの情報を発信する。さらに、生徒のキャリア形成に向けたサポートにつながるコーナーを図書室内に設置する。 （2）	ウ 入館者数 1150 名、貸出冊数 480 冊をめざす。 〔入館者数 1114 名、貸出冊数 474 冊〕 （2）	ウ 〔入館者数 458 名、貸出冊数 183 冊〕12 月末現在（△） 図書館専任が居ないため、他の業務と重複した際は閉館もしくは時短開館している状態である。 利用者増のため、1 年生オリエンテーション（4 月）で図書館での説明を組み込んだ。今後は新刊情報発信の際、魅力も伝えていくようにする。 （2）
ア	生徒一人ひとりの進路実現に向けて、実力養成に努める。	ア 実力テストや個別の模擬試験、長期休業中の補習等を計画し実施することにより、自らの学力・弱点箇所の把握・克服に役立てる。	ア、イ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率(全学年)を 80% 以上にする。 〔全学年：79.9%、1 年：70.0%、2 年：82.8%、3 年：87.1%〕	ア、イ 〔全学年：85.4%、1 年：81.0%、2 年：83.8%、3 年：90.6%〕（○） 3 年生は 6 月に進研模試を、8、9 月には共通テスト模試を実施した。 1、2 年生には 7 月に学力診断テストを実施した。各学年とも、その時点でのそれぞれの実力を確認することができたと思われる。夏期休業中には、3 年生に各教科の補習、並びに外部講師を招いての小論文講座を実施し、参加した生徒は学力・文章力ともに向上がみられた。今後も継続して、生徒のニーズに合った取り組みを実施していく。
イ	生徒一人ひとりの進路実現に向けて、進路意識の向上に努める。さらに、生徒の自発的な情報収集能力・活用力の向上を図る。	イ 大学や企業から講師を招聘し、学年ごとの生徒向けガイダンスを行い、進路実現に役立つ情報を提供する。また、各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。	〔全学年：79.9%、1 年：70.0%、2 年：82.8%、3 年：87.1%〕	1、2 年生には 7 月に学力診断テストを実施した。各学年とも、その時点でのそれぞれの実力を確認することができたと思われる。夏期休業中には、3 年生に各教科の補習、並びに外部講師を招いての小論文講座を実施し、参加した生徒は学力・文章力ともに向上がみられた。今後も継続して、生徒のニーズに合った取り組みを実施していく。
ウ	生徒一人ひとりの進路実現に向けて、各学年に応じた心構えや進路情報を提供する。	ウ 「進路の手引」を作成し、進路設計に必要な情報を提供する。また、「進路の手引」の配付にあわせて進路説明会を実施する。	ウ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「11_進路に関しての先生からのアドバイスは適切である」の肯定的回答率(全学年)を前年度より向上させる。 〔全学年：81.4%、1 年：74.4%、2 年：83.2%、3 年：86.7%〕	ウ 〔全学年：84.4%、1 年：84.9%、2 年：79.2%、3 年：88.7%〕（○） 6 月に「進路の手引」を用いて、進路状況などの情報を提供し、就職・進学とも 3 年生としてどのようにしていくべきかを理解させた。ただし、学年により成果にばらつきが見られるので、将来の進路決定に向けた意識を高める指導が必要である。
エ	保護者への進路情報を適宜提供するとともに、生徒・保護者が奨学金制度を理解し、もれなく申請できるようにする。	エ ・5 月に 3 年生保護者向け、2 月に 1・2 年生保護者向け進路相談会・進路講演会を実施する。 ・生徒・保護者が奨学金制度を理解し、もれなく申請できるよう、学校 HP や進路説明会等を通して確実な周知を行う。また、それぞれの学年に応じた周知の機会を設ける。	エ 「（保護者用）学校教育自己診断」における「10_進路に関して必要な情報が適時・適切に提供されている」の肯定的回答率(全学年)を前年度より向上させる。 〔全学年：69.6%、1 年：58.8%、2 年：65.1%、3 年：84.8%〕	エ 〔全学年：84.0%、1 年：79.5%、2 年：84.2%、3 年：88.1%〕（◎） ・3 年生保護者対象の説明会は 5 月に実施した。就職・進学とも今年の状況を説明し、様々な入試方法があることを知ってもらい、学校と家庭が連携することの重要性を理解していただいた。 ・日本学生支援機構の予約採用は 165 名の手続きを完了した。また、教室掲示・職員室前掲示を中心に情報発信を行った。今後は学校 HP にも掲載していきたい。
オ	人間スポーツ科学科の生徒を中心に、将来アスリートを多方面からサポートする人材の育成に向け、	オ ジュニアトレーナーは、本校独自の校内資格で、公的機関が認定するトレーナー資格を有する専門家やスポーツ現場で活躍する本校卒業生を講師として招き、トレーニング理論などの	オ 資格試験の正解率 70%以上を基準とし、前年度と同等以上の合格者数を目標とす	オ 〔合格者：64 名〕 合格者を対象に「トレーニングルームの使い方」「テーピングの巻き方」「マッサージの方法」の 3 回の講義を実施した。さらに、合格者格者を対象に、スチュー

府立桜宮高等学校

	ジュニアトレーナー制度の充実を図るとともに、外部団体の公認資格の受験の推進を図る。 カ ジュニアトレーナー合格者のさらなるステップアップとして、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。 (3) グローバル社会に対応できる人材の育成 ア キャンプライアカレッジとの交流を通して、国際社会に生きる市民としての意識の涵養に努める。	講習を行ったうえで資格試験を実施する。 カ トレーナー・鍼灸師など様々な現場で活躍している本校卒業生を招聘し、ジュニアトレーナー合格者対象の実技講習を前後期それぞれ3回以上実施することで知識を深め、スチューデントトレーナー等の正式資格の受験推進を図る。 (3) ア 昨年度は、キャンプライアカレッジ（オーストラリア・ビクトリア州）からの訪問が中止となった。令和4年度以降の交流も継続できるように相手校と連携を図りながら、コロナ収束後に実施できるよう計画を進めるとともに、校外の国際交流行事についての周知を確実に行う。また、他分掌と調整を行い、外部の留学に参加できる条件等を整え、生徒が国際交流に積極的に参加できるよう、周知方法や実施内容について校内設備の改善を行う。	る。 〔合格者：66名〕 カ 正式資格（スチューデントトレーナー等）の受験者数において前年度と同等以上の数を目指とする。 〔受検者数：9名〕 (3) ア 国際交流事業に参加した生徒に対するアンケート調査を実施し、満足度70%以上を目指とする。 〔新規項目〕	デントトレーナーの受験者を募り、正式資格取得を目指す。 カ 〔受検者数：15名〕 昨年度同様3回の講義に加え、スーパーインストラクター制度を活用し、現役トレーナーによる対策講座を実施し、合格率向上を目指す。 (3) ア 今年度リモートでの開催をめざしたが、実施できなかった。来年度は、短期交換留学を復活させる。(△)
2 「とも」学び、とも「育つ」教育のさらなる推進	(1) 人権を尊重する教育の推進 ア 命の大切さを理解させるとともにお互いを認め合う心を育て、人権意識を高める。また、これらの指導を通して生徒理解への環境づくりに努める。 (2) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援 ア 自立支援コースの生徒一人ひとりの希望進路の実現を図る。	(1) ア 外部講師を招いた講演会や人権教育部での講話を実施する。具体的な取組として、人権講演会及び各学年に適した人権学習会をそれぞれ実施する。また、必要に応じて人権講話を行う。 (2) ア 個別の支援計画・指導計画を作成し、生徒に応じたキャリア教育の充実に向けて有効活用する。また、生徒の希望進路の実現に向けた企業の新規開拓や、地域ならびに関連機関との連携による実習及び進路指導に努める。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率(全学年)を70%以上にする。 〔新規項目〕 (2) ア 「自立支援コースについてのアンケート」の項目4「あなた(お子様)にとって本校の自己実現(進路、学習等)に向けての支援は十分できていると思いますか」の「① 充分であると思う」の回答を65%以上とする。 〔新規項目〕	(1) ア 〔全学年：92.1%、1年：93.4%、2年：91.7%、3年：91.0%〕(◎) 6月6日に大阪ユニセフ協会の方を講師に招き、「紛争と人権」をテーマに人権教育学習会(講演会)を実施した。現在各地で起こっている紛争や過去に日本であった戦争の状況を踏まえ、命の大切さや平和への責任について学びを深めた。5月9日に、1年生に向けて「同和問題」に関する人権学習会を実施。7月7日に、3年生に向けて「近畿統一応募用紙」に関する講話を行った。2月には、2年生に向けて「ジェンダー、デートDV等」に関する人権学習会を行った。来年度もその都度テーマを検討し実施していく。 (2) ア 「①充分であると思う」の回答は66.7%であった。(○) 個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、生徒に応じて実習等の計画を立てた。また、大阪市キャリア教育センターのジョブアドバイザーに進路相談を行い、必要に応じて保護者面談を行った。今後も個々の進路希望に合わせて実習先の企業の新規開拓を行っていくとともに、自立を見据えた進路を模索していく。自立支援の進路については、保護者との懇談を何度も実施し、3名とも希望進路に到達することができた。

府立桜宮高等学校

3 豊 か で た く ま し い 人 間 性 の 育 み	(1) 他者を思いやる豊かな人間性を備え、自律した生徒を育てるとともに、社会への適応力を育成する。 ア 集団活動において、ルールを守る態度を育てるとともに、自他尊重の意識を高め、倫理性・自律性を深める。 イ 誰に対してもさわやかに挨拶ができる生徒を育て、生徒・保護者や教職員が笑顔で挨拶のできる学校をめざす。 ウ 挨拶をはじめとするコミュニケーション能力の向上を図り、生徒自らが明るく気持ちのいい学校生活を送ることができる学校づくりをめざす。 エ 基本的生活習慣の確立と時間厳守の意識の向上を図り、遅刻数の減少をめざす。 オ 社会貢献ならびに学校の活性化につながる活動を行う。 カ 生徒が他者との協力関係や良好な人間関係を築き、社会に貢献しようとする態度を養い、総合的な「人間力」の育成を図る。	(1) ア 日常の声掛けや事前指導など、生活指導は全教職員一丸となって行う。また、教員向けのいじめ防止プリントの配付や、SNS 携帯安全教室を実施するなど、いじめや暴力など問題行動の予防教育に力を入れる。 イ 登校時の挨拶指導を生徒会及び教員全員が、輪番でおこなう。 ウ あらゆる教育活動において、挨拶をはじめとするコミュニケーション能力の向上を図る雰囲気醸成する。 エ 生活指導部と各学年が連携し、遅刻指導を徹底して行うとともに、個別指導等を粘り強く行う。 オ エコキャップ運動・アイシティーeco プロジェクトの校内周知に努め、ボランティア活動に積極的に参加できるような環境づくりに努める。 カ 生徒を主体的に SAKURA フェスティバルの企画・運営に参画させるとともに、地域におけるボランティア活動への参加も促す。	(1) ア 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「18_学校生活について、先生方の指導は納得できる」の肯定的回答率(全学年)を82%以上にする。 〔全学年：80.0%、1年：79.9%、2年：75.8%、3年：84.5%〕 イ、ウ 「(生徒用) 学校教育自己診断」における「4_学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の肯定的回答率(全学年)を86%以上にする。 〔全学年：85.9%、1年：84.6%、2年：83.9%、3年：89.4%〕 エ 年間の遅刻数を540件以内にする。〔565件〕 オ 年間8000個以上を事業所に届けることを目標とする。〔新規項目〕 カ SAKURA フェスティバル来場者のアンケートにおける満足度を前年度と同等以上にする。〔95.5%〕	(1) ア 〔全学年：76.3%、1年：79.5%、2年：75.8%、3年：73.4%〕(△) 「全教職員で生活指導に取り組む」という年度当初からの共通理解のもと、生徒登校時に教員が輪番で正門付近・通学路において挨拶・声かけ・マナー指導を行い、生徒の様子・変化を観察し状況把握に努めている。「いじめアンケート」や「スマホ・携帯電話安全教室」を開催するなど、いじめを含む問題行動の未然防止に努めている。今後も、いじめや暴力など問題行動の予防教育に力を入れていく。 イ、ウ 〔全学年：86.5%、1年：87.6%、2年：85.4%、3年：86.3%〕(○) 生徒自ら積極的に挨拶ができる習慣が身についてきている。これが学校の雰囲気をよくしている一因である。また、前述の「(生徒用) 学校教育自己診断18」にも反映していけるよう教職員からも積極的にコミュニケーションを図っていく雰囲気醸成する。 エ 年間遅刻数 566件(12月末現在) (△) 各学年遅刻数が増加傾向にある。遅刻理由に関わらず、遅刻者とは必ずコミュニケーションを取り、学年担任団とも情報を共有し、遅刻が常習化しないよう、個別指導を行っていく。 オ 7300個を事業所に届けた。(12月末現在) (○) 校内周知を強化するとともに、活動の意義も生徒会新聞などを通じて周知していく。 カ 今年度の来場者の満足度は100%であった。(○) SAKURA フェスティバルのボランティア生徒数が24名であり、昨年度より大幅に増加した。また、ゆるキャラを招いたり、自立支援コース生が「花の種」をプレゼントしたり、その内容も充実させた結果である。来年度もさらに充実した内容にしてい
	(2) 自主・自律の精神を尊重し、友好な人間関係を構築することができる環境づくりをすすめる。 ア 自主・自律的態度を育成するとともに、仲間との絆の意味を理解し、自他を尊重する心を育む。 イ 部活動において、生徒が主体的に活動に取り組めるような環境づくりを図	(2) ア 「桜マインド」内で取り組む団活動の内容を充実させ、学年の枠を超えて全体で取り組ませるとともに、生徒一人ひとりが積極的に参加できるようサポートする。 イ トップアスリートや有識者など多様な外部人材を招聘し活動をすすめるとともに、教員相	(2) ア 「桜高祭の取り組みに対しての生徒アンケート」を実施し、満足度90%以上を目標とする。〔89.3%〕 イ 「生徒向け部活動アンケート(2学期末：1・2年生)」	(2) ア 今年度の満足度は、82.4%で昨年度より低くなった。(△) 学年の枠を超えた活動の中で、様々な課題に取り組み、生徒は力を合わせて協力し支えあう力を育むことができた。しかし、満足度については昨年度より低下しており、次年度はより改善できるように努めたい。 イ 生徒の満足度は、97.6%であった。(○) プレイヤーズファーストの理念のもと生徒主体に活動出来る環境づくりに努めた。

府立桜宮高等学校

	るとともに、部活動間の意思疎通を促し、学校全体の活性化を図る。	互で部活動や生徒の状況を共有する。また、部活動生徒代表者研修会を行い、部活動間の交流を図り、切磋琢磨できる環境づくりに努める。	を実施し、生徒の満足度を前年度と同等以上にする。 〔96.1%〕	また、部活動に取り組んでいる生徒は学校生活の様々な場面で活躍している。今後は部活動代表者研修を行い、生徒がより積極的に部活動に参加し、質を高められるような活動にしていきたい。
4 健やかな心身の育み	（１）自らの健康や体力に関心を持ち主体的に健康・安全・美化を管理し改善していく資質や能力を育てる。 ア 心の健康について関心を持たせるとともに、命の大切さを学ばせる。 イ 欠席状況の早期把握と、そのデータの活用を図り、生徒の相談体制を構築し、生徒理解に努める。	（１） ア ・全校生徒対象に保健講話を実施する。 ・１年生対象の「赤ちゃん先生プロジェクト」を継続して実施する。 イ データを集計し、年度末および必要に応じて分析結果を教職員に提示する。	（１） ア 「（生徒用）学校教育自己診断」における「19_いのちの大切さや社会のルールなど人権について学ぶ機会がある」の肯定的回答率（全学年）を75%以上にする。 〔新規項目〕 イ 「（生徒用）学校教育自己診断」における「20_学校には、生徒の悩みごとを聞き、相談にのれる体制ができていく」の肯定的回答率（全学年）を79%以上にする。 〔全学年：78.8%、１年：76.2%、２年：75.6%、３年：84.8%〕	（１） ア 〔全学年：92.1%、１年：93.4%、２年：91.7%、３年：91.0%〕（◎） ・全校生徒対象の命の講話「娘に教えられた命の尊さ～がんと闘った娘を見守り続けて～」が生徒たちの胸を打ち、予想以上の成果が得られた。 ・１年生対象の「赤ちゃん先生プロジェクト（全３回）」がリモートと対面のハイブリッド開催することができた。また、大東保育園園児のお遊戯披露を実現できたことも良い結果につながった。 来年度の「赤ちゃん先生プロジェクト」は、従来の（全５回）とし、さらに充実した取り組みにしていきたい。 イ 〔全学年：85.5%、１年：86.5%、２年：84.2%、３年：85.9%〕（○） 養護教諭を中心に毎日状況把握に努めている。また、学年との生徒情報の共有は、随時行っており、年５回の健康教育部会でも確認している。 カウンセラーによるカウンセリングも月平均２回実施している。学校全体として相談しやすい雰囲気が作れていると思うが、結局は教職員一人ひとりが生徒の悩みに真摯に向き合っている結果である。さらに学校全体としての相談体制を整えていかなければならない。
5 教員の資質向上	（１）指導法の改善と授業力向上を図る。 ア 研究授業、授業見学月間等の実施により、教員間の意見交換を活発に行うことで、授業力の向上をめざす。	（１） ア 授業研究を伴う校内研修の充実と公開授業を実施する。また、互いの授業を見学、意見交換できるように、現職教育や公開授業月間を年１回以上実施する。	（１） ア 「（生徒用）学校教育自己診断」における「5_授業の内容はわかりやすい」の肯定的回答率（全学年）を78%以上にする。 〔全学年：76.8%、１年：78.8%、２年：70.3%、３年：81.4%〕	（１） ア 〔全学年：82.1%、１年：84.2%、２年：83.3%、３年：78.9%〕（○） 初任者研修や教育実習（12名）の研究授業もあり、例年に比べ、多くの授業を見学する機会がもてた。また、ICTを活用した授業展開についても研修を重ねているところである。今後も授業力向上の取り組みを継続していく。
6 学	（１）開かれた学校づくりと広報活動の推進	（１）	（１）	（１）

府立桜宮高等学校

校の組織力向上と開かれた学校づくり	ア 前年度の入試出願状況を検証し、広報活動の一層の充実を図る。 イ 地域に開かれた学校づくりを目指す。 (2) 働き方改革 ア 教職員の時間外勤務の縮減に向けた取組みを促進し、勤務時間等の管理、健康管理を徹底することにより、教職員一人ひとりの意識改革を推進する。	ア 中学校訪問と年3回の学校説明会を、全教職員で分担して実施する。また、SNS等を可能な限り活用し、本校の魅力を発信する。 イ 地域住民や小中学生及び高齢者を対象とした「SAKURA フェスティバル」を継続実施する。 (2) ア 時間外勤務時間月80時間を超える教職員に対して、「疲労度蓄積チェックシート」を記入させ、自覚症状と勤務の状況を確認させる。また、必要に応じて、産業医との面談を促す。	ア 前年度よりも入学志願者を増やす。 〔普通科：147名、自立支援コース：5名、専門科：141名〕 イ 前年度と同等以上の参加者数を目標とする。〔607名〕 (2) ア 年間平均時間外勤務時間を45時間以内にする。 〔新規項目〕	ア 〔普通科：名、自立支援コース：名、専門科：名〕 中学校訪問（88校）、校外学校説明会（15会場）、オープンスクール（3回、計5回予定）を実施した。オープンスクールについては、例年より2回多く実施する予定である。また、SNS等の広報方法は、将来構想委員会と協議し、年度内に方向性を固めていく予定である。 イ 今年度の参加者数は706名であった。（○）生徒のボランティアスタッフも大幅に増加し、イベント内容が充実した。また、課題であった昼食についても、テニスコートを開放したり、デリバリー商品を増やしパンの販売も追加し大幅に改善された。 (2) ア 12月末で、年間平均時間外勤務時間が約57時間である。（△）来年度の最重要項目として取り組んでいかなければならない。職員会議のペーパーレス化や電話の対応時間の検討など他校の成功例を参考に改善していく。
7 安全で安心な学びの場づくり	(1) 生徒の生命・身体を守る取組み ア 自転車通学のマナー向上と交通事故防止を目標に、交通安全に対する意識を高める。 (2) 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底 ア 清潔で安全な環境づくりに取り組むために、委員会活動を通じて、校内美化に努める。	(1) ア 交通安全教育や毎日の通学路指導等を通して規範意識を啓発し、交通事故撲滅をめざす。また、事故対応の大切さを浸透させる。 (2) ア 清掃用具の管理に努め、ゴミの分別を啓発する。また、清掃強化月間を年2回実施する。	(1) ア 「（生徒用）学校教育自己診断」における「22_交通安全に対する意識が高まり、時間に余裕をもって登下校できている」の肯定的回答率（全学年）を60%以上にする。〔新規項目〕 (2) ア 「（生徒用）学校教育自己診断」における「24_校内の清掃は行き届いており、清潔で安全な環境を維持できている」の肯定的回答率（全学年）を70%以上にする。〔新規項目〕	(1) ア 〔全学年：78.3%、1年：77.6%、2年：79.6%、3年：77.7%〕（○）目標を大きく上回ったが、交通マナーに対する苦情が後を絶たない。また、交通事故も大事には至らないが起きている。命の大切さと関連させ、生徒の意識向上を図っていく。 (2) ア 〔全学年：78.9%、1年：77.2%、2年：77.1%、3年：82.4%〕（○）清掃強化月間を6月と11月に実施した。その際に清掃用具点検も行った。ゴミ分別は、かなり定着がすすんでいる。一方、指標の目標は上回っているが、場所によっては、大変汚れている個所も目に付く。日頃の清掃活動から見直していく必要がある。